

# 本書の特徴

## ◇ 本書の構成

本書は2部構成であり、第1部は頻出表現の習得、第2部はテーマ別に様々な内容の和文英訳に挑戦してもらう形をとっている。このような構成にしたのは、「はしがき」でも述べたように、英作文はある程度までは“ものまね的な要素”が必要であり、それを逸脱すると英文として通用しなくなるという一線があるからである。それは最低限の文法規則であり、また、ある程度パターン化された英文の公式である。このうち、文法規則については、本書の姉妹書である『例解 和文英訳教本〈文法矯正編〉』（プレイス刊）で詳しく扱っているので、本書では最低限再確認しておきたい〈時制〉の話だけに絞り、後者の英文の公式も頻度の高いものだけに限定している。というのも、従来の英作文参考書のように、公式の羅列だけでは英作文学習の必要条件にすぎず、十分条件を満たしていないと考えるからである。公式だけ覚えれば英作文の学習は終わりだと思われては困る。

とは言え、最低限覚えておかなければならない公式が存在することも事実である。そこで、第1部ではそうした必要最小限の最重要公式だけに的を絞った。学習者の次の課題は、そうした文法の知識や公式をどう実践の英作文に活かしていくかである。この際には、新たに**1つ1つの単語の使い方を身につけていく**という作業が加わる。従来の英作文学習はこの部分をかかなり軽視してきているように思う。そこで第2部では、こうした単語の使い方の話にも触れながら、総合的な和文英訳にも太刀打ちできるだけの応用力の養成を意図している。

## ◇ 本書の対象者

本書は和文英訳を基礎からじっくり学習していきたいと思っている方に最適だと思うが、基礎と言っても中学レベルの英語は習得していることが前提である。そして、できれば本書の前に、拙書『例解 和文英訳教本〈文法矯正編〉』にひと通り目を通してほしい。大学受験を志す学生さんであれば、本書のレベルは国公立大学や中堅以上の私立大学が出題する和訳問題に準拠している。また、社会人の方で英作文を**brush up**したい方や**TOEFL®**などの自由英作文対策において表現力を増やしたいと願っている方にお勧めである。あるいは、現段階で『例解 和文英訳教本〈長文編〉』（プレイス刊）に挑戦するにはいまひとつ自信のない方にも向いているだろう。